

# 地理歴史(世界史)〔問題〕

(100点・80分)

## 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見たり、裏返したりしてはいけません。
2. 出題科目は、世界史・日本史です。どちらか1科目を選択しなさい。
3. この問題冊子は地理歴史(世界史)です。全部で30ページあり、解答用紙は共通で1枚(両面)です。

試験中に問題冊子・解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

4. 試験開始後、ただちに解答用紙の所定の記入欄に、氏名・受験番号・誕生月日をそれぞれ正しく記入し、さらに受験番号・誕生月日をその下のマーク欄にマークしなさい。また、選択科目欄には、選択する科目をマークしなさい。マークと異なる科目を解答したり、両科目を解答した場合は判定対象となりません。
5. 受験番号・誕生月日が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 解答は、解答用紙の解答欄に各設問で指示された方法で記入しなさい。

この問題冊子(世界史)の解答番号は1～50です。

例えば、

|    |
|----|
| 20 |
|----|

と表示のある問いに対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号20の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

| 解答番号 | 解 答 欄             |
|------|-------------------|
| 20   | ① ● ③ ④ . . . . . |

7. 問題冊子の余白等は、下書きなどに適宜利用してよいが、各設問で指示された解答は、必ず解答用紙の解答欄に指示された方法で記入しなさい。
8. 試験終了後、提出は解答用紙のみとし、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 世界史

**第1問** 以下は世界的な交易をめぐる歴史の一部をまとめたものである。文章をよく読み、下の問い（問1～10）の答えを解答欄にマークせよ。

15世紀に始まる大航海時代以降、ヨーロッパ諸国はアジアやアメリカ大陸へ進出した。その先駆けとなったポルトガルはインド航路を開拓し、いち早く<sup>Ⓐ</sup>アジアとの交易を本格化した。同国は、1511年、香辛料交易の中心地マラッカを占領し、1517年には<sup>Ⓑ</sup>明との通商を開始するなど、アジアにおける交易ネットワークに進出していった。

ところが、17世紀に入ると、世界貿易の中心は<sup>Ⓒ</sup>スペインからの独立をはたしたオランダに移った。オランダは1602年に<sup>Ⓓ</sup>東インド会社を設立してアジアに本格進出し、ポルトガルから香辛料貿易における主役の座を奪った。また、オランダは<sup>Ⓔ</sup>台湾を一時占領しながら撤退を余儀なくされたものの、ヨーロッパ諸国で唯一、鎖国下の日本と交易をおこなった。さらに、本国では、最先端の造船技術によりバルト海交易、ニシンなどの漁業で周辺諸国に優り、オランダは圧倒的な経済力を獲得した。こうして、同国の首都アムステルダムは国際金融の中心にまでのぼりつめた。

他方、イギリスも1600年に東インド会社を設立し、インドのマドラスなどを拠点にアジア交易へ参入した。当初、イギリスは、スペインとポルトガルに対抗するためにオランダとの協力を図ることもあったが、1652年以降、3度にわたる<sup>Ⓕ</sup>イギリス=オランダ戦争が勃発した。さらに17世紀後半、イギリスとフランスが重商主義政策を強化するなか、オランダの経済的覇権は徐々に失われていった。

18世紀になると、イギリスとフランスが<sup>Ⓖ</sup>インドやアメリカ大陸に対する植民地化の過程で激しく対立した。一連の戦争に勝利したイギリスでは、軽工業分野で他国に先駆けて産業革命が起きた結果、<sup>Ⓖ</sup>19世紀のイギリスは「世界の工場」と呼ばれ、産業や貿易を通して世界経済の中心となった。こうして、ロンドンのシティが新たな世界金融の中心地となったのである。

その一方、アメリカ大陸では1775年に<sup>Ⓖ</sup>独立戦争が起こり、やがてアメリカ合衆国が誕生した。そしてアメリカでは、19世紀、アメリカ=イギリス戦争や南

北戦争を経て急速に重工業化が進んだ。その領土には豊富な天然資源があったため、同じく重工業化を進めたドイツとともに、イギリスを19世紀末に追い抜き、ついに、アメリカは世界一の工業国に躍り出た。その後、20世紀の2度の世界大戦を経て、アメリカは①世界経済において圧倒的に優位に立つこととなった。

このように、近世以降の「世界の一体化」のなかで、貿易や経済の中心は、繁栄と衰退を繰り返しながら、次々と変遷してきたのである。

問1 下線部④に関して、1世紀のローマ帝国民は季節風を利用して紅海やインド洋にかけて海洋進出していたことが知られている。それを証言する書名を、次の①～④から一つ選べ。

- ① 『南海寄帰内法伝』
- ② 『三大陸周遊記』
- ③ 『エリュトラー海案内記』
- ④ 『地理誌』

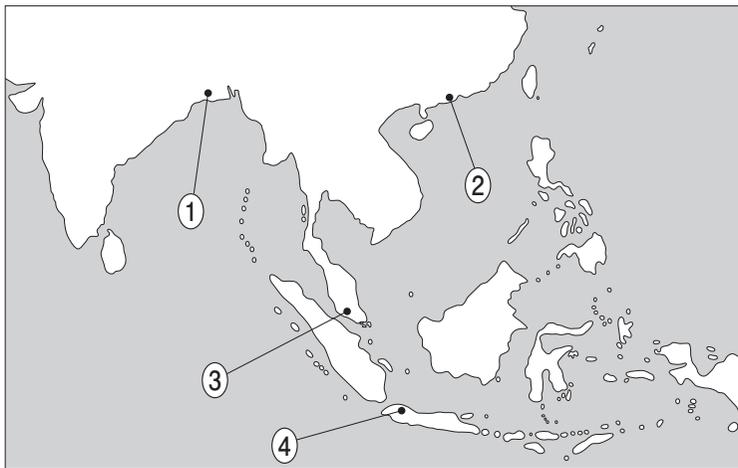
問2 下線部⑥に関して、明の交易政策を時系列に沿って古いものから並べたとき、正しい組合せを、次の①～⑥から一つ選べ。

- ① ポルトガルによるマカオ居住権の獲得 → 鄭和の南海遠征 → 洪武帝の海禁政策
- ② ポルトガルによるマカオ居住権の獲得 → 洪武帝の海禁政策 → 鄭和の南海遠征
- ③ 鄭和の南海遠征 → ポルトガルによるマカオ居住権の獲得 → 洪武帝の海禁政策
- ④ 鄭和の南海遠征 → 洪武帝の海禁政策 → ポルトガルによるマカオ居住権の獲得
- ⑤ 洪武帝の海禁政策 → ポルトガルによるマカオ居住権の獲得 → 鄭和の南海遠征
- ⑥ 洪武帝の海禁政策 → 鄭和の南海遠征 → ポルトガルによるマカオ居住権の獲得

問3 下線部㉓に関して、誤った文章を、次の①～④から一つ選べ。 3

- ① スペイン王フェリペ2世がカトリックを強制したことが、オランダ独立戦争を引き起こす大きな要因となった。
- ② ネーデルラントの南部10州は戦争中にスペイン支配下にとどまることを決めたが、北部7州はシュマルカルデン同盟を結び、スペインに対する独立戦争を続行した。
- ③ 1581年、ネーデルラント連邦共和国の独立が宣言され、オラニエ公ウィレムが初代総督となった。
- ④ 1648年に締結されたウェストファリア条約において、オランダの独立が正式に認められた。

問4 下線部㉔に関して、その中心拠点となったバタヴィアの正しい位置を、地図中の①～④から一つ選べ。 4



17世紀のアジア海域

問5 下線部㉔に関して、次の文中のXとYの正誤の正しい組合せを、下の①～④から一つ選べ。 

|   |
|---|
| 5 |
|---|

【[X：呉三桂] がオランダから台湾を奪い、[Y：明] の支配に抵抗する拠点とした。】

- ① X — 正    Y — 正                      ② X — 正    Y — 誤  
③ X — 誤    Y — 正                      ④ X — 誤    Y — 誤

問6 下線部㉕に関して、1651年にイギリスが制定した法律が開戦のきっかけとなった。その法律を、次の①～④から一つ選べ。 

|   |
|---|
| 6 |
|---|

- ① 航海法                      ② 統一法                      ③ 穀物法                      ④ 人身保護法

問7 下線部㉖に関して、次のXとYの文章の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④から一つ選べ。 

|   |
|---|
| 7 |
|---|

X：イギリス東インド会社は、1757年の三十年戦争でフランスと地方政権の連合軍に勝利した。

Y：1763年に結ばれたユトレヒト条約で、イギリスはカナダやミシシッピ川以東のルイジアナなどをフランスから獲得した。

- ① X — 正    Y — 正                      ② X — 正    Y — 誤  
③ X — 誤    Y — 正                      ④ X — 誤    Y — 誤

問8 下線部①に関して、当時のイギリスをめぐる説明として、誤った文章を、次の①～④から一つ選べ。 8

- ① 第1回万国博覧会はロンドンで開催され、水晶宮が人気を博した。
- ② 第2回選挙法改正で都市労働者に選挙権が与えられた。
- ③ 責任内閣制が初めて成立し、ここに「王は君臨すれども統治せず」という伝統が生まれた。
- ④ 労働者は人民憲章を掲げ、チャーティスト運動を起こした。

問9 下線部①に関して、次の文中のXとYの正誤の正しい組合せを、下の①～④から一つ選べ。 9

【植民地軍は当初苦戦を強いられたが、[X：トマス=ペイン]の著した[Y：『プリンキピア』]は独立の正当性を説いたことで大きな話題となり、アメリカ独立の機運を高めた。】

- ① X — 正      Y — 正                      ② X — 正      Y — 誤
- ③ X — 誤      Y — 正                      ④ X — 誤      Y — 誤

問10 下線部①に関して、正しい文章を、次の①～④から一つ選べ。 10

- ① ブレトン=ウッズ体制において、ドルは世界の基軸通貨となった。
- ② 1970年代末、レーガンは「大きな政府」を標榜した経済政策（レーガノミクス）を実施した。
- ③ フランクリン=ローズヴェルトは、世界恐慌への対応策として、政府間賠償・戦債の1年間の支払猶予を宣言した。
- ④ ドルと金との兌換を停止するドル=ショック後の1971年に変動相場制が導入された。

**第2問** 以下はイスラーム世界とヨーロッパ世界の関係をめぐる歴史の一部をまとめたものである。[A]と[B]の文章をよく読み、下の問い（問1～10）の答えを解答欄にマークせよ。

[A] イスラーム勢力と中世ヨーロッパの衝突を考えると、重要な事項として、まずトゥール・ポワティエ間の戦いと十字軍が挙げられよう。アラビア半島で成立したイスラーム教の勢力は各方面に拡大を遂げるなかで、北アフリカを西進した一派がジブラルタル海峡を渡り、ヨーロッパに侵入していったところ、8世紀前半に<sup>a</sup>トール・ポワティエ間の戦いでフランク王国軍に敗れた。だが、イスラーム勢力はヨーロッパにとどまるところとなり、以後、ヨーロッパ史に影響を与えることとなる。一方、このフランク王国が分裂したあと、ノルマン人やマジヤール人による侵攻が本格化し、ヨーロッパに混乱を与える。しかし、11世紀になると、彼らはヨーロッパに定住し、その結果、相対的な安定を得たヨーロッパは対外発展へと向かうが、その一例が十字軍である。イスラーム側で第1回十字軍に対処したのは<sup>b</sup>セルジューク朝であった。

しかしながら、キリスト教的ヨーロッパとイスラームが常に敵対関係にあったわけではない。両者の交流はイタリア商人の東方貿易やヨーロッパ側の<sup>c</sup>12世紀ルネサンスにうかがわれるのである。



問3 同じく下線部⑥に関して、スンナ派諸学の教授のため、主要都市に建設されたマドラサは特に何と呼ばれたのか。次の①～⑥から一つ選べ。 13

- ① 知恵の館                      ② イマームのモスク                      ③ アズハル学院  
④ ニザーミーヤ学院              ⑤ メスキータ                      ⑥ ミナレット

問4 下線部③の前段階として、イスラーム世界は古代ギリシアの学問を次々と受容していった事実がある。特に、イスラームの学者らに影響を与えたのはアリストテレスの著作であった。彼と同時代を生きた人物を、次の①～④から一つ選べ。 14

- ① ソクラテス                      ② ハンニバル  
③ アレクサンドロス大王              ④ フェイディアス

問5 同じく下線部③に関して、アラビア語訳のギリシア語文献、アラビア語文献がラテン語に翻訳された結果、西ヨーロッパの学問が大いに発展した。当時、この翻訳活動の中心はどこであったのか。次の①～④から一つ選べ。 15

- ① オックスフォード              ② モンテ=カシノ  
③ パリ                      ④ トレド

[B] オスマン帝国とヨーロッパも歴史的に重要かつ多様な関係を築いた。まず1453年、オスマン帝国はコンスタンティノープルを陥れ、<sup>④</sup>ビザンツ帝国を滅亡させた。さらに、東欧へも進出し、神聖ローマ帝国と対抗する<sup>⑤</sup>フランスとの利害の一致から手を組み、ウィーンを包囲してヨーロッパに多大な脅威を与えた。一方、オスマン帝国は非イスラームの優秀な人材を積極的に登用しようとした。すなわち、主にバルカン半島の征服地からキリスト教徒の優秀な少年を徴用し、イスラームに改宗させてから英才教育を施した上で、官僚に登用したり、常備軍である  に編入したりしたのである。このような人材徴集制度は  制といわれる。しかし、オスマン帝国は17世紀頃から勢いを失っていき、19世紀以降、帝国各地でヨーロッパ諸国との利害衝突に翻弄されることになる。そこで、オスマン帝国では<sup>①</sup>いくつもの改革がおこなわれた。だが、最終的にヨーロッパ諸国もオスマン帝国も第一次世界大戦に突入する。このような状況下、各国は戦勝と戦後体制構築に向け、<sup>⑥</sup>密約を結ぶという秘密外交を展開した。そして相矛盾する複数の密約内容が第二次世界大戦後のパレスティナ問題、中東戦争勃発の原因となってしまうのである。

問6 文中の  と  に入る用語について正しい組合せを、次の

～から一つ選べ。

- |                                |            |            |
|--------------------------------|------------|------------|
| <input type="text" value="①"/> | I — ミット    | II — テイマール |
| <input type="text" value="②"/> | I — シパーヒー  | II — テイマール |
| <input type="text" value="③"/> | I — マムルーク  | II — デヴシルメ |
| <input type="text" value="④"/> | I — イェニチェリ | II — デヴシルメ |

問7 下線部㉔に関して、次の文中のXとYの正誤の正しい組合せを、下の①～④から一つ選べ。 17

【オスマン帝国のスルタン [X：セリム2世] がビザンツ帝国を滅ぼした。  
そして、オスマン帝国は [Y：シーア派] を奉じていた。】

- ① X — 正    Y — 正                      ② X — 正    Y — 誤  
③ X — 誤    Y — 正                      ④ X — 誤    Y — 誤

問8 下線部㉕に関して、オスマン帝国はフランスに対し通商上の恩恵の特権を与えた。その名称を何というか。次の①～④から一つ選べ。 18

- ① カピチュレーション                      ② シャリーア  
③ ワクフ                                      ④ マンサブダール

問9 下線部㉖に関して、19～20世紀の3つの動きを時系列に沿って古いものから並べたとき、正しい組合せを、次の①～⑥から一つ選べ。 19

- ① 青年トルコ革命 → タンジマート → ミドハト憲法の停止  
② 青年トルコ革命 → ミドハト憲法の停止 → タンジマート  
③ ミドハト憲法の停止 → タンジマート → 青年トルコ革命  
④ ミドハト憲法の停止 → 青年トルコ革命 → タンジマート  
⑤ タンジマート → ミドハト憲法の停止 → 青年トルコ革命  
⑥ タンジマート → 青年トルコ革命 → ミドハト憲法の停止

問10 下線部⑧に関して、誤った文章を、次の①～④から一つ選べ。

20

- ① フセイン・マクマホン協定により、イギリスはアラブ地域の独立を約束した。
- ② ロンドン秘密条約（密約）により、イタリアは「未回収のイタリア」をめぐって連合国と手を結び、連合国側に参戦した。
- ③ サイクス・ピコ協定により、イギリスはフランス、イタリアとのあいだでオスマン帝国の領土を分割することを決めた。
- ④ バルフォア宣言により、イギリスはアラブ人の住むパレスティナにユダヤ人の独立国家の建国を認めた。

### 第3問 以下は古代ローマ帝国と中世に至るその系譜についてまとめたものである。

文章をよく読み、下の問い（問1～10）の答えを解答欄にマークせよ。

ローマ帝国は、地中海を中心とする膨大な領土を有し、<sup>a</sup>「ローマの平和」を享受した。しかしながら、帝国は「3世紀の危機」に直面したのち、衰退へと向かう。その一方で、1世紀前半には<sup>c</sup>キリスト教が成立した。当初、キリスト教は迫害されたものの、313年のミラノ勅令によって公認され、392年にはついに帝国の国教となった。だが、395年を境に、帝国は東西に分割され、ついに476年、<sup>d</sup>西ローマ帝国は滅ぶことになる。

これに対し、東ローマ（ビザンツ）帝国は、東西分裂後も1000年以上にわたって存続した。そもそも東ローマ皇帝は理念上、旧西ローマ帝国領の各地を支配するゲルマンの諸王に君臨する存在とみなされたのみならず、6世紀の<sup>e</sup>ユスティニアヌス帝は帝国の復活を目指した。このようななか、首都コンスタンティノープルは「第二のローマ」とみなされるようになったが、やがてイスラーム諸国との戦争などから国力は傾くことになる。他方、偶像崇拜を徹底的に否定するイスラームとの対決から、<sup>f</sup>726年、皇帝レオン（レオ）3世は聖像禁止令を発布する。これは結果的にキリスト教会の東西分裂をもたらす原因になるが、東ローマの教会はやがてギリシア正教会と称され、また<sup>g</sup>スラヴ人への布教を積極的におこなうようになった。だが、東ローマ（ビザンツ）帝国はコンスタンティノープルが<sup>h</sup>十字軍に占領されるという事態に陥り、最終的にはオスマン帝国により滅ぼされてしまう。しかし、モスクワ大公のイヴァン3世が最後のビザンツ皇帝の姪と結婚することにより、ローマ帝国の継承を唱える。こうして、モスクワは「第三のローマ」と称されていくのである。

ローマ帝国につらなる動きは西ヨーロッパにも現れた。滅亡前の西ローマ帝国領内にはゲルマン諸王国が乱立したが、8世紀、西ヨーロッパの中心的存在はフランク王国になっていた。このような情勢を受け、上記の聖像禁止令に猛反発したローマ教皇は800年のクリスマスに、<sup>i</sup>フランク王カールにローマ皇帝の帝冠を与えた。つまり、教皇は東ヨーロッパの宗教・政治の中心であるビザンツ皇帝との力関係を互角にするため、西ヨーロッパに政治的支柱を求めたのである。し

かし、カール大帝の死去を契機にフランク王国は分裂へと向かい、西ローマ帝国の系譜はやがて絶たれてしまう。とはいえ、東フランクでは、ドイツ王オットー1世が962年、ローマ教皇からローマ皇帝位を与えられ、これが①神聖ローマ帝国の起源となった。

このように、ローマ帝国はその滅亡後もヨーロッパ諸国にとって重視されるべき存在であったのである。

問1 下線部④に関して、『後漢書』は、西域都護のとある人物がパルティア経由で部下の甘英をローマ帝国に派遣したが、甘英はシリアまで行ったものの、首都ローマにはいたらなかったと伝える。この甘英を派遣したとある人物とは誰か。次の①～④から一つ選べ。 21

- ① 班固      ② 班超      ③ 白進      ④ 蔡倫

問2 下線部⑥に関して、「ローマの平和」の時期として、誤った文章を、次の①～④から一つ選べ。 22

- ① トラヤヌス帝の治世に帝国領土は最大になった。  
② タキトゥスは『ゲルマニア』を著した。  
③ カラカラ帝は帝国の全自由人にローマ市民権を与えた。  
④ マルクス=アウレリウス=アントニヌス帝は『自省録』を著した。

問3 下線部㉔に関して、正しい文章を、次の①～④から一つ選べ。

23

- ① テオドシウス帝が招集したニケーア公会議において、アタナシウス派が正統とされた。
- ② エフェソス公会議で異端とされたネストリウス派は後に中国に伝わり、景教と呼ばれた。
- ③ カルケドン公会議において、三位一体説が正統な教義として初めて認められた。
- ④ かつてマニ教徒であったアウグスティヌスは『教会史』を著した。

問4 下線部㉔に関して、ゲルマン人大移動をもたらしたフン人に脅かされながら、西ローマ帝国は451年、カタラウヌムの戦いでフン人に勝利をおさめた。そのときのフン王の名前（Ⅰ）と東ローマ帝国の首都の位置（Ⅱ）の正しい組合せを、次の①～④から一つ選べ。 24

- ① Ⅰ－テオドリック      Ⅱ－ア
- ② Ⅰ－アッティラ      Ⅱ－ア
- ③ Ⅰ－テオドリック      Ⅱ－イ
- ④ Ⅰ－アッティラ      Ⅱ－イ



5世紀の東地中海地域

問5 下線部㉔に関して、ユスティニアヌス帝の業績として、誤った事項を、次の①～④から一つ選べ。 25

- ① 『ローマ法大全』の編纂      ② 東ゴート王国の征服
- ③ ヴァンダル王国の征服      ④ プロノイア制の導入

問6 下線部㉑に関して、同じ世紀に生じた出来事として正しいものを、次の①～④から一つ選べ。 26

- ① 新羅が朝鮮半島を統一した。
- ② 吐蕃がチベットを統一した。
- ③ ジャワ中部でシャイレンドラ朝が有力となった。
- ④ 則天武后が帝位につき、国号を「斉」と改めた。

問7 下線部㉒に関して、布教のため文字が考案された。それを、次の①～⑥から一つ選べ。 27

- ① アラム文字      ② コイネー
- ③ ウンマ          ④ パスパ（パクパ）文字
- ⑤ キリル文字      ⑥ ソグド文字

問8 下線部㉓に関して、正しい文章を、次の①～④から一つ選べ。 28

- ① 第1回十字軍は聖地イエルサレムを奪回し、その地にラテン帝国を建てた。
- ② ジェノヴァ商人が資金を出した第4回十字軍は、コンスタンティノープルを占領した。
- ③ 第3回十字軍は、サラーフ=アッディーン（サラディン）によって退けられた。
- ④ ローマ教皇ウルバヌス2世はイタリア北部のクレルモンで十字軍の派遣を提唱した。

問9 下線部①に関して、正しい文章を、次の①～④から一つ選べ。

29

- ① アンセルムスらを招き、学芸を奨励したカールの文芸復興はカロリング=ルネサンスと称された。
- ② カールは教皇レオ3世によりローマ皇帝に戴冠された。
- ③ カールは国内を州に分け、各州を伯に委ねる一方で、伯を「王の目、王の耳」により監視させた。
- ④ カールはラヴェンナ地方をローマ教皇に寄進し、ここに教皇領が誕生した。

問10 下線部①に関して、誤った文章を、次の①～④から一つ選べ。

30

- ① ナポレオンはアウステルリッツの戦いにおいて、神聖ローマ皇帝に勝利した。
- ② シュタウフェン朝断絶後、大空位時代が生じた結果、カール4世は金印勅書を発布した。
- ③ 神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世は1772年のポーランド分割に関与した。
- ④ マリア=テレジアはオーストリア継承戦争において宿敵フランスと手を組んだ。

**第4問** 以下は東アジア史と東南アジア史の一部をまとめたものである。[A]と[B]の文章をよく読み、下の問い（問1～10）の答えを解答欄にマークせよ。

[A] 17世紀前半に成立した<sup>a</sup>清は直轄地に加え、チベットや外モンゴルなども  として自治を認めて支配下に置き、大帝国を築いた。しかし、19世紀半ばのアヘン戦争の敗北から、清の国際的な地位は大きく揺らぐこととなった。さらに、国内では太平天国の乱も生じ、清がこれへの対応に苦慮するなか、<sup>b</sup>欧米人が中国人部隊（常勝軍）を編制、指揮し、反乱の鎮圧に貢献した。加えて、清はヨーロッパ諸国との戦争に敗れただけではなく、日清戦争でも敗北を喫した。これを機に、明治維新後の日本にならって<sup>c</sup>立憲君主制をめざす改革が清政府内でも起こるが、最終的には失敗した。その後、清は義和団戦争によりますます苦境に立たされる。そのようななか、<sup>d</sup>孫文は1905年に中国同盟会を結成し、清朝の打倒をめざしていた。

問1  に入る用語を、次の①～⑥から一つ選べ。

- ① 冊封国            ② 藩王国            ③ 委任統治国  
④ 半植民地        ⑤ 藩部              ⑥ 属州

問2 下線部<sup>a</sup>の初期にはイエズス会宣教師がヨーロッパの技術を盛んにもたらし  
た。この点について、次の文中のXとYの正誤の正しい組合せを、下の①～④  
から一つ選べ。

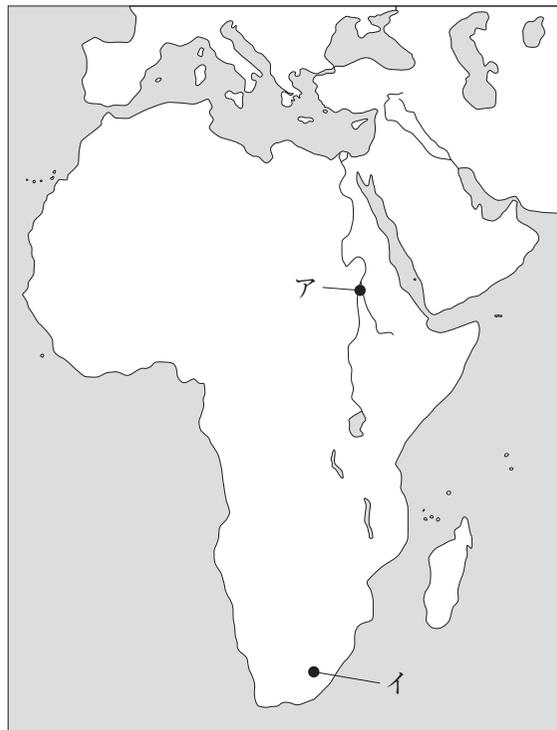
【北京郊外の離宮、円明園は〔X：イタリア人〕のカスティリオーネ（郎世寧）が設計に加わり、造営されたが、19世紀半ばの〔Y：アロー戦争〕の際に略奪、破壊された。】

- ① X－正    Y－正            ② X－正    Y－誤  
③ X－誤    Y－正            ④ X－誤    Y－誤

問3 下線部⑥に関して、常勝軍を率いて功をなしたゴードンはその後、アフリカでの反乱（事件）の鎮圧に派遣されたが、戦死するところとなった。反乱名（Ⅰ）と地図に示した戦地（Ⅱ）の正しい組合せを、次の①～⑥から一つ選べ。

33

- |   |                    |       |
|---|--------------------|-------|
| ① | Ⅰ — ウラービー（オラービー）の乱 | Ⅱ — ア |
| ② | Ⅰ — ウラービー（オラービー）の乱 | Ⅱ — イ |
| ③ | Ⅰ — マフディー運動        | Ⅱ — ア |
| ④ | Ⅰ — マフディー運動        | Ⅱ — イ |
| ⑤ | Ⅰ — ファショダ事件        | Ⅱ — ア |
| ⑥ | Ⅰ — ファショダ事件        | Ⅱ — イ |



19世紀のアフリカ

問4 下線部㉓に関して、次の文中に入るX・Y・Zの組合せとして正しいものを、  
下の①～⑥から一つ選べ。 34

【この改革は [ X ] と呼ばれ、中心的人物の一人は [ Y ] であった  
が、この改革は [ Z ] らによって失敗に終わらせられた。】

- |             |         |         |
|-------------|---------|---------|
| ① X — 光緒新政  | Y — 袁世凱 | Z — 光緒帝 |
| ② X — 光緒新政  | Y — 康有為 | Z — 西太后 |
| ③ X — 戊戌の変法 | Y — 袁世凱 | Z — 光緒帝 |
| ④ X — 戊戌の変法 | Y — 康有為 | Z — 西太后 |
| ⑤ X — 洋務運動  | Y — 袁世凱 | Z — 光緒帝 |
| ⑥ X — 洋務運動  | Y — 康有為 | Z — 西太后 |

問5 下線部㉔に関して、中国同盟会はどこで結成されたのか。次の①～④から一  
つ選べ。 35

- ① ハワイ      ② 南京      ③ 東京      ④ 瑞金

[B] ベトナムは中国と接するため、⑤ 古くから様々な影響を受けてきた。唐代までベトナムには中国の統治機関が置かれ、千年以上にわたり中国の支配を受けていたが、ベトナムは10世紀後半に独立し、11世紀以降、国号を大越とした。その後、⑥ 1802年に阮福暎がベトナム全土を統一し、阮朝を開いた。ところが、19世紀後半、フランスは軍事力によってベトナムを保護国化し、それに反対する清との戦争にも勝利した。こうして、ベトナムはフランス領インドシナ連邦の一部として植民地化された。第二次世界大戦勃発後、⑦ フランスがドイツに敗北したことを受けて、今度は日本軍がフランス領インドシナに進駐した。しかし、大戦終結直後の1945年9月、ホーチミンはベトナム民主共和国の独立を宣言した。これを認めないフランスとのあいだでインドシナ戦争が起こるが、結局、1954年、⑧ フランスはインドシナ地域から撤退した。ところが、1955年、社会主義圏の拡大を恐れるアメリカ合衆国の支援を受けて、南ベトナムには⑨ ベトナム共和国が成立した。やがて、ベトナムは全土にわたってアメリカとのベトナム戦争に突入していくこととなる。

問6 下線部⑨に関して、ベトナム出土の青銅器の銅鼓に代表される古代文化とは何か。次の①～⑥から一つ選べ。 

|    |
|----|
| 36 |
|----|

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| ① クメール文化 | ② 仰韶文化    | ③ 竜山文化  |
| ④ ドンソン文化 | ⑤ チャンパー文化 | ⑥ 三星堆文化 |

問7 下線部㉑に関して、次の文中に入る X・Y・Z の組合せとして正しいものを、  
下の①～⑥から一つ選べ。 37

【阮福暎は [ X ] というフランス人宣教師の支援を受け、国号を [ Y ]  
とし、首都を [ Z ] に置いた。】

- |   |          |        |             |
|---|----------|--------|-------------|
| ① | X — ウォード | Y — 安南 | Z — ハノイ     |
| ② | X — ウォード | Y — 安南 | Z — フェ (ユエ) |
| ③ | X — ピニョー | Y — 越南 | Z — ハノイ     |
| ④ | X — ピニョー | Y — 越南 | Z — フェ (ユエ) |
| ⑤ | X — ウォード | Y — 越南 | Z — フェ (ユエ) |
| ⑥ | X — ピニョー | Y — 安南 | Z — ハノイ     |

問8 下線部㉒に関して、次の文中に入る X と Y の組合せとして正しいものを、下  
の①～④から一つ選べ。 38

【1940年6月にパリは陥落し、フランスはドイツに降伏した。この後、ドイツは中部フランスに親ドイツ的な [ X ] 政府を作らせ、その国家主席に [ Y ] が就いた。】

- |   |            |           |
|---|------------|-----------|
| ① | X — ヴィシー   | Y — ド=ゴール |
| ② | X — ヴィシー   | Y — ペタン   |
| ③ | X — 自由フランス | Y — ド=ゴール |
| ④ | X — 自由フランス | Y — ペタン   |

問9 下線部①に関して、フランスが撤退する契機となった戦い（Ⅰ）と休戦協定が結ばれた場所（Ⅱ）の正しい組合せを、次の①～⑥から選べ。 39

- |   |               |           |
|---|---------------|-----------|
| ① | I — ディエンビエンフー | Ⅱ — パリ    |
| ② | I — ディエンビエンフー | Ⅱ — ジュネーヴ |
| ③ | I — サイゴン      | Ⅱ — パリ    |
| ④ | I — サイゴン      | Ⅱ — ジュネーヴ |
| ⑤ | I — コーチシナ     | Ⅱ — パリ    |
| ⑥ | I — コーチシナ     | Ⅱ — ジュネーヴ |

問10 下線部①に関して、初代大統領の名を、次の①～④から選べ。 40

- |   |           |   |       |
|---|-----------|---|-------|
| ① | バオダイ      | ② | シハヌーク |
| ③ | ゴ=ディン=ジエム | ④ | モサデグ  |

**第5問** 以下はアフリカ分割とその解消の歴史と、第一次世界大戦から第二次世界大戦前のドイツの歴史をまとめたものである。[A]と[B]の文章を読み、下の問い(問1～10)の答えを解答欄に記入せよ。

[A] 19世紀前半まで、アフリカ大陸に対するヨーロッパ人の知識は沿岸部に限定されていた。ところが、19世紀中頃までに<sup>①</sup>アフリカ大陸中央部が探検され、現地状況が明らかになると、ヨーロッパ列強はアフリカ大陸に強い関心を抱くようになった。19世紀後半、コンゴ地域をめぐるヨーロッパ諸国で対立が起き、それを調整すべく、1884年から翌年にかけてベルリン会議が開催された。会議のなかで<sup>②</sup>コンゴ川流域の分割とアフリカの植民地化の原則が定められた。そして、後者の原則によりヨーロッパ列強はアフリカを侵略し、植民地にするようになっていった。当然ながら、この過程のなか、各地では<sup>③</sup>侵略に対する抵抗が生じたが、そうした抵抗は実を結ばず、20世紀初頭には、<sup>④</sup>アフリカ全土はほとんど列強の支配下に置かれることとなる。しかしながら、第二次世界大戦後にはアフリカの多くの地域で独立国が誕生することとなった。なかでも<sup>⑤</sup>「アフリカの年」と呼ばれる年には17カ国が独立したのである。

問1 下線部<sup>①</sup>に関して、大陸中央部の横断に成功した人物を、次の①～④から一つ選べ。 

|    |
|----|
| 41 |
|----|

- ① ヘディン      ② ピアリ      ③ アムンゼン      ④ スタンリー

問2 下線部<sup>②</sup>に関して、コンゴ川流域を獲得した国はどれか。正しい国名を、次の①～④から一つ選べ。 

|    |
|----|
| 42 |
|----|

- ① イギリス      ② ドイツ      ③ スペイン      ④ ベルギー

問3 下線部㉓に関して、次のXとYの文章の正誤について正しい組合せを、下の①～④から一つ選べ。 43

X：アドワの戦いにて、イタリア軍はエチオピア軍に大敗した。

Y：南アフリカ戦争は、ブール人とドイツのあいだの戦争で、最終的に後者が勝利した。

- ① X — 正    Y — 正            ② X — 正    Y — 誤  
③ X — 誤    Y — 正            ④ X — 誤    Y — 誤

問4 下線部㉔に関して、20世紀初頭のアフリカで独立していた国として正しいものを、地図中の①～④から一つ選べ。 44



20世紀初頭のアフリカ

問 5 下線部㊸に関して、「アフリカの年」とは何年のことか。次の①～④から一つ選べ。 

|    |
|----|
| 45 |
|----|

- ① 1959年      ② 1960年      ③ 1961年      ④ 1962年

[B] 第一次世界大戦後、ドイツは巨額の賠償金支払いや反共和国活動などにより経済・政治が不安定な状況が続いた。このようななか、シュトレゼマンは首相として、または外相として、① 経済政策を実施し、外交によって海外から協力を引き出すことで、経済の安定化を図った。しかし、世界恐慌によりドイツ経済は破綻し、国民生活に多大な影響が及んだ。これを背景として、ナチスや共産党が勢力を増した。そしてナチスは、② 比較的短期間でドイツの全権を掌握することとなる。国内体制を確立したナチスは、対外侵略体制も整えていった。対外侵略のためには、第一次大戦後に構築されたヴェルサイユ体制が足かせとなるので、③ この体制を崩壊させるべく、次々に行動を起こした。ナチスは、王政が倒れ、経済・政情が定まらないなかで発生した④ ス페인内戦において、反乱側の軍人フランコを軍事的に支援した。そればかりか、人民戦線の結成や国際共産主義運動が起こっていく一方で、⑤ 国際的に孤立していたドイツ・日本・イタリアは接近し、三国枢軸を形成するようになるのである。

問 6 下線部①に関して、シュトレゼマンの事績として、誤ったものを、次の

①～④から一つ選べ。 

|    |
|----|
| 46 |
|----|

- ① 四カ年計画を策定し、食糧や軍需生産の拡張を図った。
- ② アメリカの民間資本のドイツ流入を促進させることに成功した。
- ③ 土地財産などを担保に新紙幣を発行して、インフレを収束させた。
- ④ ドイツの国際連盟加盟を実現した。

問7 下線部㉘に関して、ナチスが一党独裁にいたるまでの過程を時系列に沿って古いものから並べたとき、正しい組合せを、次の①～④から一つ選べ。

47

- ① 国会議事堂放火事件 → 1932年選挙 → 全権委任法
- ② 全権委任法 → 国会議事堂放火事件 → 1932年選挙
- ③ 1932年選挙 → 全権委任法 → 国会議事堂放火事件
- ④ 1932年選挙 → 国会議事堂放火事件 → 全権委任法

問8 下線部㉙に関して、ヴェルサイユ体制を崩壊させる動きとして、誤ったものを、次の①～④から一つ選べ。

48

- ① ラインラントへの進駐
- ② シャンパーニュ地方の併合
- ③ ザール地方の編入
- ④ 再軍備宣言

問9 下線部㉚に関して、次の文章中のX・Y・Zの正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥から一つ選べ。

49

【ドイツ軍が爆撃した小都市 [X：ゲルニカ] を題材にして戦争への怒りを表現した画家 [Y：ピカソ] は [Z：印象派] を発展させた。】

- ① X — 正    Y — 正    Z — 正
- ② X — 正    Y — 正    Z — 誤
- ③ X — 正    Y — 誤    Z — 誤
- ④ X — 誤    Y — 正    Z — 正
- ⑤ X — 誤    Y — 誤    Z — 正
- ⑥ X — 誤    Y — 誤    Z — 誤

問10 下線部①に関して，3国が国際連盟を脱退した順番として正しいものを，次の①～⑥から一つ選べ。 50

- ① 日本 → ドイツ → イタリア
- ② 日本 → イタリア → ドイツ
- ③ ドイツ → 日本 → イタリア
- ④ ドイツ → イタリア → 日本
- ⑤ イタリア → 日本 → ドイツ
- ⑥ イタリア → ドイツ → 日本